

知多市教育委員視察懇談会会議録

平成23年10月25日（火）午前10時45分～

生駒市役所会議室401・402

中井委員長：委員長の中井です。今日は朝早くから知多市からお越しいただきありがとうございます。この度は、訪問先に本市を選んでいただきありがとうございます。生駒市は約12万人の都市です。およそ6年前に最年少で当選された山下市長のもとで、住み良い住宅都市を目指した市政を推進しているところですが、教育委員会といたしましても、そのために具体的な施策を講じているところでございます。今日はざっくばらんに忌憚のない意見交換ができればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

生駒市から村田委員・平本委員・早川教育長・峯島課長・村田の自己紹介
知多市から岩見田委員長・石井委員・竹内委員・深谷委員・平松委員・小宮教育長・竹内生涯スポーツ課長の自己紹介



平松委員：生駒市の教育委員は4名ということですが・・・。

中井委員長：もう1名増やしてほしいと市長に言っているのですが・・・。その辺のところ教育長説明をお願いします。

早川教育長：定数5名ですが数年来欠員となっております。これまでに推薦させていただいた方は何人かおられました。それぞれに事情がありまして、現在まで決まっていない状況です。9月議会でも教科書選定といった重要な案件があるのに欠員ではどうかといった質問が出ていたばかりです。なんとか5人体制にさせていただきたいと願っているところです。

小宮教育長：知多市では、各地区から推薦いただいております。次の方をお願い

いしますという半強制的に出していただいています（笑）。（法律改正時に）保護者代表が決まった段階で1名増となりました。教育委員さんを決めるのに事務局が関わるのがあまりないです。

中井委員長：数が多いほうがいろいろな意見を聞けることですし、是非5名にさせていただきたいところです。

早川教育長：教育委員の報酬は、新しく選任された委員から日額制に変わっていきます。奈良県内でも同様の動きが出てきています。

小宮教育長：うちは月額を抑えているので、日額にするほうが高くなるかもしれません。何かあると全員ではなくても集まって話し合いますので、教育委員の出席する回数が多いのです。

平本委員：平均どれくらい集まるのですか？

石井委員：平均2.5回くらいでしょうか。緊急のことがあると招集することが多いです。今年は東京への修学旅行の件について、教育委員会の意見を求められました。また中学生のニュージーランド派遣をしておりますが、このときも地震があったところに行くということの是非について協議をしました。その結果、今年の派遣はオーストラリアに変えました。修学旅行は、条件をつけて時期も変えずに東京で実施しました。このようなことで、今年はよく集まっています。

中井委員長：生駒市でも海外派遣をやっていたことがあります。成果を挙げたということですね、課長。

峯島課長：アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドを順番に中・高校生を対象に募集して実施しておりました。実施にあたっては春からALTを交えた研修をしながら夏休みに2週間のホームステイを10回続けていたのですが、1000万円の費用がかかるものですから、事業精査ということで中止になりました。知多市では、中学生はどのように選ばれているのでしょうか？

小宮教育長：中学校3年生を対象に300万円くらいの予算で、受益者負担半額でやっています。20年位前からの事業で各校2名と2人計12名で1週間のホームステイです。行革から見直しについて白羽の矢が当たっていますが、子どもたちの発表をお聞きになるともうちょっと続けてもいいかなとなっています。去年から交付団体になったものですから、費用対効果の面から（継続が）厳しいかも知れませんが、ぜひ継続させたいと考えます。

早川教育長：修学旅行という学校行事について、市教委でいいとか悪いとかの話がされるのですか？

小宮教育長：通常は特色ある学校づくりをなささいと言っているものですが、今回は親の間でいろいろな意見が出たもので、教育委員が各地域から出てい

ただいているものですからご意見を聞くことになったのです。

中井委員長：まさに教育委員会が機能しているのですね。

深谷委員：保護者から多くの不安や意見があったものですから、放っておけないということになりました。知多市民は海から近いところに住んでいるので。

早川教育長：東京方面への修学旅行が予定されている中学校が数校ありましたが、教育指導課から子ども達の安全安心を最優先で実施できるか指導をし、その結果7校は西のほうに、1校は安全確保の体制を整え予定どおり東京方面で実施しました。生駒市では保護者の不安を払拭する体制をきっちりとするように指導した上で、学校に任せています。

石井委員：あの当時余震が多かったことと、あと停電。地区によって放射能のレベルが高かったこともあって……。必ず連絡がとれるようにするなどの手立てを講じました。

小宮教育長：各学校がどうしても予定通りに実施したいという希望があったものですから、細かい安全管理の指示を出しました。例えば、職員がついて行かない分散研修は不可とも指示しました。

岩見田委員長：話題変えてよろしいですか？私は名古屋で長く教員をしていましたが、最近知多市でも、生徒指導上問題のある子ども達がだんだん都市化してきたように感じます。落ち着きがなくなってきました。生駒もベッドタウンですから大阪の流れでそんな感じありますか？

中井委員長：ベッドタウン化してきましたが、地域のコミュニティと結構連携してまちづくりをしているほうじゃないかと思います。生活基盤がしっかりしていて生活レベルが高いこともあります。

早川教育長：現職時代に生徒指導をされていた平本委員どうですか？

平本委員：今は教育現場を離れて地域の様子を見ているのですが、現職時代は随分子どもに無茶を言っていたなと思います。例えば、歩道を歩きなさいと指導していましたが、実際歩道を歩いてみると、狭くて車道を歩くほうが楽なケースも多く、実状とはずれた指導をしていたのだなあとと思います。朝、校門指導にしても、離れた渡り廊下の上から叱咤していたこともありました。遅刻しないように出てきている子供たちに対して、理解のない教育をしていたなと今になって思います。現在、保護司もやっているのですが、親と子の意志の食い違いが問題になっているケースもありまして、子どもの思いを親も教師もしっかり聞いてやらなければならないと思います。生駒はそれほど荒れているわけではないけれど、周りの大人から理解してもらっているとか愛に包まれた子どもがどれだけいるかといえば心配がありますね。

中井委員長：奈良県北西部というところは近畿でも最先端をいくところがあり、早くいろんなことが起こってくる可能性があります。生駒市は奈良県の学習

院といわれたところで、いい面で受け継がれてきたところがあると思います。
早川教育長：大阪に近く大阪府生駒市でも郵便がくるところで、子ども達の3割くらいが中学校で私学に抜ける状況です。経済基盤がある中で、レールを親がつくるんですよ。それに乗っていける子はいいのですが、ポツンと狭間にはまってしまう子ども達が悩んで不登校になったり、教育支援施設があるのですが、そこに通室するというケースがあります。経済的にも谷間の子が苦しんでいるというケースもあります。

岩見田委員長：名古屋で最後にいた学校の子どもは8割が集合住宅にいたんですよ。そこの変遷をみてきて知多市を見渡すと、今いるところがニュータウンで外国の方もたくさんおられるんですね、生徒指導上の問題も多いところで、保護司もやっているんですが、平本先生がおっしゃった子どもの心を支えてやる大人がいないことが問題ですね。生駒に来る電車で見ている、ここは落ち着いたところだなと思いました。

早川教育長：ありがたい言葉ですが、いろいろございます。

竹内委員：生駒市は幼稚園が充実していますね。知多市と保育園の割合が逆というか。

早川教育長：保育園も最近4つできまして、ここ1、2年のうちに新しい保育園が4つできるということで、保育園も多くあります。

公立幼稚園は9園あって、どれもほぼ満室です。

待機児童も多いので、幼稚園1園で保育園のような長時間の預かり保育を来年度からやることになっています。幼稚園は3年保育をやっています。今後、園児数が4、5年くらいしたら減ってきたときに、幼稚園をどうしていくのか、子ども園に移行していくとか幼保一体型を考えるとかが課題ですが、今のところ別々でもやっていけます。生駒市は、他市に比べて幼児が増加しているなど、特殊な人口形態となっています。

小宮教育長：知多市では公立幼稚園は2つで、幼稚園は私立にお任せし、保育園は行政がというようになっています。保育園がほしかった地域性です。

早川教育長：私立幼稚園は4つあります。

中井委員長：幼稚園のニーズは高いですが、男女共同参画からもこれからは働く保護者が増え、生駒市でもそういう方向に行くこともありますね。

早川教育長：お昼どきになりました。午後から具体的な施策などは教育総務部と生涯学習部の各担当がご説明いたします。大いに勉強させていただきました。

竹内課長：貴重な時間をありがとうございました。

このあと集合写真

午後から教育委員会活動点検評価報告書に基づき質疑応答を行った。

